

# 保育所の1歳児クラスでのかみつきと0歳児保育との関連

杉山 弘子\*・佐藤由美子\*\*・前田 有秀\*\*\*

Biting Problems of One Year Old Children Related to Care and Life in Younger  
Years in Day Nursery School

Hiroko Sugiyama・Yumiko Sato・Tomohide Maeda

本研究は、1歳児クラスにおいてかみつきが起きない保育の在り方を検討する研究の一部であり、0歳児クラスからの発達と保育の流れの中で、1歳児クラスでかみつきが起きないための保育の在り方を検討した。0歳児クラスでの保育の在り方と1歳児クラスでのかみつきの生起との関連を探ることが本研究の目的である。そのため、0歳児及び1歳児クラスの担任と主任・園長の経験をもつ5名の保育者に面接調査を行い、1歳児クラスでかみつきが起きないために0歳児クラスの保育で大切にしていることを尋ねた。5名の回答から、0歳児クラスの保育で、大人との信頼関係を築くこと、遊ぶ力を育てること、友だちとの関わり方を伝えること、言葉を育てること、睡眠のリズムをつくること、1歳児クラスでのかみつきが起きない保育につながっていくことが考察された。

キーワード：かみつき、1歳児クラス、0歳児クラス、保育所

## はじめに

子ども同士のかみつきは、3歳未満児の保育において対応を求められる問題の一つである。かみつきは0歳児クラスから見られる<sup>1)</sup>が、かみつきの多発期にある1歳児<sup>2)</sup>が多く在籍する1歳児クラスにおいては、かみつきが起きない保育の探求がより大きな課題になると考えられる。しかし、1歳児クラスのかみつきへの対応は、1歳児クラスになってから行えば十分なのであろうか。0歳児クラスから1歳児クラスに進級する子どもたちは、進級に伴う環境の変化の中で一時的に不安定な姿を見せることもあるが、0歳児クラスでの経験や育ちは1歳児クラスでの生活する姿や友だち関係につながっていくものと考えられる。そこで、本研究では、0歳児クラスからの発達と保育の流れの中で、1歳児クラスでかみつきが起きないための保育の在り方を検討することとする。本研究の目的は、0歳児クラスでの保育の在り方と1歳児クラスでのかみつきの生起との関連を探ることである。

本研究は、1歳児クラスにおいてかみつきが起きない保育の在り方を検討する研究の一部である。0歳児クラス及び1歳児クラスを担当した経験があり、その後、主任・園長として0歳児保育及び1歳児保育の支援にあたってきた保育者を対象に面接調査を行う。対象者は、長年

---

2015年9月7日受理  
\* 尚綱学院大学 教授  
\*\* 尚綱学院大学 非常勤講師  
\*\*\* 尚綱学院大学 准教授

の経験から、0歳児クラスと1歳児クラスの子どもの発達と保育について、また、かみつきの問題について、多面的・総合的であるとともに長期的な視点からの見解をもっていると考えられるからである。

## 方 法

### 1. 対象

面接調査の対象は5名の保育者で、保育経験は表1の通りである。保育者としての総経験年数は27年から40年で、0歳児クラス担任の経験は2年から7年、1歳児クラス担任の経験は2年から6年である。また、主任と園長を合わせた経験は、12年から16年である。

表1 調査対象者の保育経験

	A保育者	B保育者	C保育者	D保育者	E保育者
総経験年数	27年	30年	35(8)年	38年	40年
0歳児クラス担任	5年	3～4年	4(2)年	2年	7年
1歳児クラス担任	4年	2年	5(3)年	3年	6年
主任	7年	15年	5年	2年	9年
園長	7年	1年	10年	11年	3年

注) 調査年度も年数に含めた。( )内は無認可保育園での経験を示す。

### 2. 日時と場所

面接調査は2015年2月中旬に行われた。時間は、全体で1時間から1時間半程度である。場所は、対象者の勤務する保育園の一室である。

### 3. 手続き

事前に調査票を送付し、調査項目を知らせた。面接では調査票に沿って聞き取りを行った。調査者は筆者ら3名で、1名が主に聞き取りを進め、1名が補足的な質問を行った。他の1名は専らワープロでメモをとった。また、やりとりを録音し、事後に書き起こして記録を作成した。その内容を対象者に確認してもらい、正式の記録とした。

### 4. 調査項目

1歳児クラスでかみつきが起きないようにするための保育の在り方を検討するための調査項目全体は表2の通りである。本研究ではその中の「6. 1歳児クラスでかみつきが起きないようにするために、0歳児クラスの保育で大切にしていること」を分析の対象とする。

### 5. 倫理的配慮

面接調査の目的、方法(録音を含む)、倫理上の配慮(①調査項目が保育園関係者のプライバシーの保護や守秘義務に反すると判断されたときなどには、回答を拒否していただく。②調査への回答は、研究以外の目的には使用せず、研究の公表にあたっては、保育園や個人が特定

されないようにする。)を文書にて説明し、調査に協力し、その回答を研究資料として使用することに文書での同意を得た。

表2 調査項目

1. 保育者としての経験年数
①保育者となってからの年数
②担当クラス等の年数
2. 1歳児クラスのかみつきに関する経験
①クラス担任としての経験
・かみつきのないクラスはあったか？
・かみつきが広がったクラスはあったか？
・起きてもすぐになくなったケースはあったか？
「あった」の場合、なくなったのはなぜか？
・なかなかなくなるケースはあったか？
「あった」の場合、なくならなかったのはなぜか？
②主任としての経験
*クラス担任の場合と同じ質問に加えて、次の質問をしている。
・1歳児クラスにかみつきが起きたときの主任としての関わり
③園長としての経験
*クラス担任の場合と同じ質問に加えて、次の質問をしている。
・1歳児クラスにかみつきが起きたときの園長としての関わり
3. かみつきはなぜ起きるかについての考え
①発達との関連はあるか？
②保育体制との関連はあるか？
③保育環境との関連はあるか？
④保育の進め方との関連はあるか？
⑤日課との関連はあるか？
⑥保育内容との関連はあるか？
⑦保育者の子どもへの関わりとの関連はあるか？
⑧かみつきに至るまでの子どもの気持ちの流れとの関連はあるか？
⑨子どものその日の状態との関連はあるか？
⑩かみつかれたり、かみつきを見たりすることとの関連はあるか？
⑪その他
*①～⑩については、「ある」の場合どのような関連かを尋ねている。
4. 1歳児クラスの保育においてかみつきが起きないようにするために必要と考えていること
5. 1歳児クラスの保育においてかみつきが起きないようにするために取り組んでいること
6. 1歳児クラスでかみつきが起きないようにするために、0歳児クラスの保育で大切にしていること

## 結 果

1歳児クラスでかみつきが起きないようにするために、0歳児クラスの保育で大切にしていることを尋ねた。各保育者の回答は下記の通りである。以下、A保育者をAと記す。他の保育者についても同様である。

A：かみつきが起きないようにということだけを考えての保育はしていないが、まず、0歳児時代にどの子にもしっかりとした大人への安心感をつくり、1歳児に送り出したいと思っている。それは、自分のことをわかってもらえているということでの安心感である。そのためには、一人ひとりのその子なりの表現や思いをわかって声をかける。また、発達段階を理解してその子にあった声かけや関わりをする。

まずは一人の大人との安心した関係がしっかりできれば自然と他の大人へも広がっていき、今度は友だちにも目が向くようになると思う。そして友だちと一緒に楽しい、同じが嬉しい、そんな思いをたっぷり感じて1歳児にあがってほしい。

B：かみつきが起きないようにするためにというよりは、1歳児でいっぱい遊べる子や安心して過ごせることを見通して、大人との信頼関係や子どもの意欲を育てるために、歌やわらべうたをたくさん取り入れている。0歳児では、泣く、笑う、怒るなどの感情を豊かに出せる子どもになってほしい。また、保護者とのかかわりの中で、保育園での子どもの様子を伝えたり、保護者が家での様子を保育士に言えるような関係を大事にしている。

C：ゆったりと丁寧に過ごすことが基本である。加えて愛着関係が大事である。子どもが発する声に返してあげ、この人には大丈夫という安心感みたいなものが育つと、何かあったとしても、直接子ども（相手）に向かうのではなく、大人にこれしたいとか、あれしたいとか言ってくるのではないか。小さいときから要求をいっぱい吸い上げてもらえることで、いろんな方法がとれるのではないか。指さしをしたらうるさくない程度に伝えてあげ、思いも言葉にしてあげるとい生活をしていたら、かみつきは少ないのではないかと思う。いつも子どものそばにいられるわけではないが、子どもが大人をちらっと見てきたときには、何かしながらも、「見てるよ」ということを伝えることは赤ちゃんクラスでは大事だと思う。

D：かみつきが起きないためかどうかということはあるが、0歳の保育では、大人との愛着をしっかりと育てること、拠り所にできる大人が明確に感じ取れるという育ちは必要である。加えて、かみつきは言葉との関係があるので、指さしやまなざしでの要求を言葉にして返しなが言葉の育ちをどうつくるかが大事である。大人が自分の求めていることをわかってくれるという実感、そして「こうなの」と言葉で返してもらいながら、それが言葉とつながっていくことが0歳1歳の時は大事かと思う。

気持ちよく生活できる睡眠のリズムをつくることも重要である。

E：0歳児は口で物を確かめる時期なので、なめたりする遊びも存分にさせる。人への関心が育つとき、かみつきそうなしぐさもあったりする。そのときに、「なでなでしてあげよう」とか「〇〇ちゃんだね」と言葉を添えて関わり方を知らせていくことで、かみつきではない別の関わり方を学ぶのではないか。

## 考 察

5名の回答からは、0歳児クラスの保育で大切にしていることと1歳児クラスのかみつきとの関連について、以下のような考察ができる。

### (1) 大人との信頼関係を築く

第1に、自分の気持ちを大人にわかってもらえているという安心感、愛着関係など、大人との信頼関係を築くこととの関連である。Dは、0歳児保育では拠り所にできる大人が明確に感

じ取れるという育ちが必要であると言う。Cは、この大人には大丈夫という安心感が育つと、何かがあったとしても、直接相手に向けた行動をとるのではなく、大人に要求を伝えてくるのではないかと回答している。

神田は生後10ヵ月ごろに三項関係が成立すると、友だちの持っている物が目に入ってもすぐに手を出すのではなく、親をふりかえるようになると言う<sup>3)</sup>。こうした三項関係を基盤に、大人に要求や思いをくみ取ってもらうことができれば、信頼関係がより確かになるとともに、大人とともに要求をかなえていくことができるので、かみつきも起きにくくなると考えられる。

## (2) 遊ぶ力を育てる

第2に、1歳児になったときに意欲的に遊べることを見通した保育がなされていることとの関連があげられる。西川は「かみつきやすい子どもにとって、ほんとうに楽しい時間を保育の中で構成して、イライラを根源からなくし、生活を楽しむ豊かな心を育てていくことがたいせつだ」と述べている<sup>4)</sup>。保育者は子どもが楽しく遊ぶことのできる環境を用意するだけではなく、子ども自身が遊びを見つけ楽しんでいけるように育てていくことが大切なことを指摘していると理解される。Eは、0歳児は口で物を確かめる時期なので、なめたりする遊びも存分にさせると言う。こうした遊びも含め、0歳児一人ひとりの発達の時期に応じた遊びを十分に保障しながら遊ぶ力を育てていくことが大切であると考えられる。

もちろん、安心して楽しく遊ぶことができるためには、大人への安心感、信頼関係が築かれていること、あるいは遊びの関わりの中で築かれていくことが必要であろう。

## (3) 友だちとの関わり方を伝える

第3に、友だちへの関心をとらえて、関わり方を伝えていくこととの関連があげられる。Eは、かみつきそうなしぐさを人への関心の育ちととらえて、関わり方を具体的に知らせていくことで、かみつきではない別の関わり方を学ぶのではないかと述べる。例にあげられているように、保育者とともに肯定的な感情をもって友だちを見つめたり、友だちと関わったりすることは、1歳児クラスでの楽しさの共感にもつながると考えられる。

友だちとの楽しさの共感は0歳児クラスの時期から見られる。9ヵ月前後から友だちと同じことをして共感する姿が見られ、1歳前後からは、2～3人の子どもがカーテンをはさんでイナイナイバアをするなど、友だち自身を対象にした行動をはじめると言う<sup>5)</sup>。こうした子ども同士の楽しい関わりが生まれる保育の中で、友だちと関わる楽しさとともに関わり方を伝えていくことが大事であると考えられる。

## (4) 言葉を育てる

第4に、言葉を育てることとの関連である。泣く、笑う、怒るなどの感情の表現、指さしやまなざしなど、様々な形で子どもの表現を受け止め、言葉にして返していくことは、言葉を育てるとともに大人への信頼を育むであろう。こうして、コミュニケーションの手段としての言葉や思いや要求を言葉で伝えようとする意欲が育つことで、かみつきは起こりにくくなると考えられる。

前述の三項関係は言語獲得の基礎であると言われる。言葉を育てるといえるとき、子どもが言葉を獲得する前の時期、あるいは語彙が少ない時期に、子どもが指さしやしぐさ、表情などに

よって大人と何かについて伝え合う関係、すなわち三項関係でのコミュニケーションを大事にしていく必要がある。

#### (5) 睡眠のリズムをつくる

第5に、気持ちよく生活できる睡眠のリズムをつくることとの関連である。睡眠不足はかみつき発生の要因の一つと考えられている<sup>6)</sup>。たまたま就寝時間がずれてしまった場合にもその日その子の状態に応じた対応が必要になるが、土台としての生活リズムを0歳の時期からつくることが、活動への意欲や情緒の安定につながると考えられる。睡眠のリズムは家庭での生活の仕方と大いに関連があり、家庭との連携が決め手になると言う<sup>7)</sup>。家庭と連携しながら生活のリズムをつくっていくことが大事であると言える。

以上の通り、0歳児クラスの保育で、大人との信頼関係を築くこと、遊ぶ力を育てること、友だちとの関わり方を伝えること、言葉を育てること、睡眠のリズムをつくることが、1歳児クラスでのかみつきが起きない保育につながっていくと考えられる。A、B、Dはこの質問への回答にあたり、1歳児クラスでかみつきが起きないようにするための保育ではないと前置きしている。0歳児クラスでその時期の保育をていねいに進めることが、結果として1歳児クラスでかみつきが起きない保育につながると言えるのではなかろうか。

#### 引用文献

- (1) 西川由紀子・射場美恵子 (2004) 「かみつき」をなくすために－保育をどう見直すか. 54
- (2) 北九州市保育士会編著 (2013) 自我の芽生えとかみつき. 蒼丘書林. 14-15
- (3) 神田英雄 (2008) 育ちのきほん. ひとなる書房. 12-17
- (4) 西川由紀子 (2004) なぜ、かみつきの?. ちいさいなかま. 455. 40
- (5) 神田英雄 (2006) 乳児期の発達と保育の課題. 宍戸健夫・土方弘子・神田英雄 (編) 乳児の保育を豊かに. ルック. 36
- (6) 前掲 (2) 116.
- (7) 林陽子 (2015) 乳児保育の内容と方法 (1) 基本的生活を中心に. 乳児保育研究会 (編) 改訂4版 乳児の保育新時代. ひとなる書房. 40